

こたえ 王様の耳はロバの耳

ひょうじゅん 標準 ⑤

王様の耳はロバの耳

(ギリシャの神話)

昔、ギリシャのある国に、ミダスという王様がいました。王様は、ある出来事で神様をおこらせてしまい、耳をロバの耳に変えられてしまいました。

王様は、そのことをだれにも知られたくなかったので、いつも大きなぼうしをかぶって、耳をかくしていました。

けれども、かみの毛を切るときだけは、ぼうしをぬがなければなりません。王様は、かみを切る男に言いました。「わたしの耳のことをだれかに話したら、命はないぞ。」

男は、だれにも話しませんでした。けれども、だまっていることが苦しくて苦しくてたまりません。そこで、男は野原にあなをほり、そのあなに向かって「王様の耳は、ロバの耳。」とさけんで、土でうめました。

やがて、その場所にあしが生えてきました。風がふくと、あしはさらさらとゆれて、「王様の耳は、ロバの耳。」とささやきました。こうして、ひみつは国じゅうに知れわたってしまったのです。

ひみつは、いつかはもれてしまうものだという教えとしても、この話は語りつがれています。

1

王様の耳は、何の耳に変えられてしまいましたか。

ロバ

の耳

2

王様が、いつも大きなぼうしをかぶっていたのは、どうしてですか。

ロバの耳を、だれにも知られたくなかったから。

3

男が、あなに向かってさけんだのは、どうしてですか。

ひみつをだまっていることが、苦しくてたまらなかったから。

4

ひみつが国じゅうに知れわたったのは、どうしてですか。

ア

男が人々に話したから。

イ

あしが、風にゆれてささやいたから。

ウ

王様が自分で話したから。

おうちの方へ

- ひみつをかかえる苦しさに着目して、男の気持ちを考えてみましょう。